

世界巡

プラントハンター

編集委員

インタビュー

にしはた・せいじゅん 1980年川西市生まれ。川西明峰高等学校卒業後、豊州の語学学校で英語を学ぶ。植物知識屋「花字」(はなご)5代目。2012年「そら植物園」の名でコンサルティング事業も始めた。



川西市の植物知識屋「花字」

世界中に植物を巡る「プラントハンター」たち。私の定義ではその時代、その時代に必要とされる植物を選び、世界を愛した人(現代のプラントハンター)という定義は、自分がつくるという気概はある。魅力ある植物を選び世の中を変えたい。

巨大な花壇「神」は、満開にしてみせた。人は、植物を見てこれば喜ぶくれるものかと感動した。開花日の異なる花を調整するのには、苦労はしたが、会社のスタッフが一丸となってくれた。自

のを除き原則お断りです。昨年、神戸国際会館(神戸市中央区)の屋上に完成した「そらガーデン」造園の指揮を執った。「自分が兵庫県民でもあり、神戸を代表する花を自指した。入

楽しめる

「可能性は無限大だ。植物を介せば歳、人種、年齢層に拘束なく、人々の輪が広がりを結び、植物は人間に必要なもの、価値のあるものだということの社会の理解、認識が進んでいる」

「構想中のイベントは、大きな船を借り、船内に植物園をつくり、港、港で見てもらう世界の植物博覧会。それに、世界一のクリスマスツリーも立ててみたい。あつと驚くような、どの木を使うか、もう決めている」

「可能性は無限大だ。植物を介せば歳、人種、年齢層に拘束なく、人々の輪が広がりを結び、植物は人間に必要なもの、価値のあるものだということの社会の理解、認識が進んでいる」

編集委員 峰大二郎

力が必要だ、という内容だった。参加者に難しい問題を発せたい。なるなというところか。

市の担当課や促進役のファシリテーターと打ち合わせを重ねた。買値から移住・定住を打ち出すのではなく、まずは地域のよさについて語り合った上で、住みたいまちにするには何ができるか「自分目線」で考えてもらおうという構成にした。

約3時間の会合を終、最初は緊張気味だった女子学生がグループ内の意見をまとめ、身の周りの自然を感じられるまちにしたい」と提案。他の参加者からも若者が集うイベント企画案、自衛隊を生かした地域活性化案などのアイデアが出された。

「難しい」を分かりやすくするとの大切さを実感した。一筋縄にはいかないけれど。

日曜オピニオン

「また来て」と言える病院に

譜久山剛

宅医療への取り組み、災害時の避難場所としての役割が求められていくことは否めない存在。そういう病院のイメージも変えたい

「また来てね」と言える病院」が新しい病院のコンセプトだ。そのため一層の待合室に大きな本棚をつくらせた。全国で私設図書館が

広がりを求めていると聞く、中でも「人に驚かす本を一冊お持ちください」という、本を通して人のつながりを育んでいく「まちライブラリー」の考え方に共感したから「ブックコンシェルジュ」を養成して、利用者の要望や必要に応じて本を薦められたり、適切な医療情報を得られたりできるようにしたい。ロビーでの公開勉強

会など、本を介した発信もしていく予定だ。

2階への階段を上っていくと、趣味やボランティア活動を展開できる「コミュニティホール」がある。ここで地域のサークルが発見をしていたら、外来や入院の患者さんが興味を持って足を運ぶかもしれない。そして定期的に訪れる外部の人がいることで「早く元気に」なんて思ってもらえたら大成功。そんなサークル活動の時間割も作りたいたいと思える。

病院の敷地内にある庭にもとても大きな可能性がある。手間のかけられない常緑樹ではなく、あえて開花する木を中心に選び、植樹した。病院スタッフだけではなく、患者さんや地域の人と時間をかけて育てていくため。きつと種相相手のリハビリテーションとは別の身体の使い方ができると思う。

地域住民に対し、病院が役に立っているかどうかと問う。地域と連携が協力し、コラボレーションできるか否か、ヒントをもらったり、「一緒に活動したりできる場をつくりたい」と思う。

「また来てね」と言える病院」が聞かなく聞かぬ。

「こりやきすがに病院を造り直さなきゃあかんね」

病院ができてから40年。3度の増築の結果、動線は複雑で老朽化が進み、「なんとなかまあかん」と思っていた。台風でもない大雨で雨漏りをした時に決断した。

あつぽけな病院の建て直しだが、どうしても譲りたくないコンセプトがあった。超高齢社会では病院が気軽に訪れてさまざまな情報を得たり人とながたりする場所になれるのではないか。「地域に必要とされる医療機関であり続けられるか」という視点で設計を考えた。地域に外出き、公民館や自治会が地域の人々と連携、対話し、かかりつけ医の機能を在

譜久山病院院長

見る
思う

ふくやま・つよし 1977年、神戸市東灘区生まれ。神戸大学第一外科に入局。大病院済生会中津病院を退き、09年から明石市の譜久山病院に、04年から院長を務める。同兼任。

「また来てね」と言える病院」が聞かなく聞かぬ。